

2022-01-26

App Bridge Ver. 1.19.0 のアップデート内容を示します。

利用者環境に導入いただいているモジュール（Agent など）は、バージョンアップ後もそのままご利用いただけます。リリース機能をご利用いただくには、モジュールの入れ替えが必要となる場合があります。「別紙 2 変更区分」をご参照下さい。

1. タグ機能の追加【C-1】

登録したノードにタグを設定することで、ノードをグルーピングする機能を追加します。タグに対応する機能は以下のとおりです。

（1）App Bridge Monitor（監視サービス）

- エラー判定条件、エラー抑止条件
- 通知抑止条件
- 通知振分条件

例えば、Web サーバにタグ WEB を設定し、振分条件に WEB を指定することで、WEB サーバの通知先を一括設定できます

（2）App Bridge Kicker（タスク制御サービス）

- 実行タスク抽出条件

2. 価格改定【C-1】

ご利用を促進するため、以下の価格改定を実施致します。

（1）App Bridge Monitor（監視サービス）

App Bridge Monitor（監視サービス）のカスタム監視を無償化します。これによりパフォーマンスモニタ監視などの追加監視を容易にご利用いただけます。

（2）App Bridge Kicker（タスク制御サービス）

App Bridge Kicker（タスク制御サービス）のタスク定義に課金タイプを新設し、従来の Type1 に加え、Type2 の課金方式を追加します。Type1 の課金がタスク実行回数を基準としているのに対し、Type2 の課金はタスクスケジュール回数を基準とします。これにより、繰返し実行（例えば 10 分毎に実行するタスク）の費用が抑えられ、容易にご利用いただけます。

また、従来課金対象となっていたセンタ Agent のモジュールダウンロード費用を無償化します。

詳細は別紙 3 をご参照下さい。

3. App Bridge Notification（通知サービス）の分離【C-1】

Web サイト上、App Bridge Monitor（監視サービス）の一部であった App Bridge Notification（通知サービス）の設定、照会機能を独立させました。

4. Microsoft Azure 向け API 監視の終了【C-1】

App Bridge Monitor（監視サービス）では、Azure Cloud Services 及びクラシックデプロイモデル Virtual Machine（以下クラシックデプロイモデルと称す）に対する API 監視を提供していますが、ご利用（監視実績）が極めて少なくなったことを受け、当該サービスを終了致します。

- クラシックデプロイモデルの API 監視については、Ver. 1.19.0 のリリースにより、自動的にノード登録が変更され API 監視設定が解除されます。
- クラシックデプロイモデルの Agent 監視については、従来どおりサービスを継続します。現時点でサービス終了の予定はありません。
- Amazon EC2 の API 監視については、従来通りサービスを継続します。現時点でサービス終了の予定はありません。
- Azure Resource Manager デプロイモデル Virtual Machine の API 監視については、開発を計画しており、準備でき次第リリースする予定です。

5. 小規模な改善と不良対策

別紙 1 に記載しています。

以上

別紙 1 小規模な改善と不良対策

以下の改善、不良対策を実施しています。

#	対象	内容	変更区分
1	Web アプリケーション	App Bridge Kicker の Web サイトでメッセージの一部が文字化けする問題に対応	C-1
2		App Bridge Kicker インスタンス照会で、Running ステータスのタスクを現在時刻で抽出するように改善	C-1
3		App Bridge Kicker インスタンス照会で、特定の環境エラーが生じたステップを表示できない問題に対応	C-1
4	App Bridge Monitor Windows Agent	SQL Server 監視で DB 接続エラーが発生した場合の通知を DB 応答監視のエラーとして通報するよう修正	M-W1
5		Smart Install でノードを変更した際、ローカル SQL Server 監視の通知先が変更されない問題に対応	M-W1
6	App Bridge Monitor Linux Agent	テキストログ監視ログローテーション3の設定を改善	M-L1
7		テキストログ監視で、空の監視対象ファイルが追記出力された場合、稀に例外が発生する問題に対応	M-L1
8		CPU ビジー監視、ディスクビジー監視で取得した値が100%を超えた場合に100%と見なす対応を追加	M-L1
9		例外発生時の処理を改善	M-L1
10		正規表現処理を効率化	M-L1
11		Log4j 2.17.1 を適用	M-L1
12	App Bridge Kicker Center Agent	同一オーナーがセンタ Agent で同時実行できるタスク数に上限を設定	C-1
13	App Bridge Kicker Windows Agent	プロセスユーザの環境変数に対応	K-W1
14		タスク定義に既存の環境変数を指定すると例外が発生する問題に対応	K-W1
15		タスクキューイング時の処理を効率化	K-W1
16		モジュールライブラリシュリンク処理の誤りにより、一定条件で最新バージョンが削除される問題に対応	K-W1
17	App Bridge Kicker Linux Agent	タスクキューイング時の処理を効率化	K-L1
18		モジュールライブラリシュリンク処理の誤りにより、一定条件で最新バージョンが削除される問題に対応	K-L1
19		例外発生時の処理を改善	K-L1
20		正規表現処理を効率化	K-L1
21		サービス起動時チェックを改善	K-L1
22		Log4j 2.17.1 を適用	K-L1
23	API コマンド	StatsDownload で -fm Create を指定したとき、出力ファイルが既に存在すると Head レコードが出力されない問題に対応	M-W2
24		通知メッセージビューアの長時間処理にプログレス画面を追加	M-W2
25		LB4SearchModule コマンドを新設	K-W2

別紙 2 変更区分

お客様がリリース機能を利用するためには、変更区分で示される作業が必要となります。

区分	バージョンアップ機能を利用するために必要な作業	備考
C-1	なし	センタ変更のみで利用可
M-W1	App Bridge Monitor Windows Agent のアップデートが必要	
M-W2	App Bridge Monitor API コマンドのアップデートが必要	
M-W3	App Bridge Monitor 連携サービスのアップデートが必要	
M-L1	App Bridge Monitor Linux Agent のアップデートが必要	
K-W1	App Bridge Kicker Windows Agent のアップデートが必要	
K-W2	App Bridge Kicker API コマンドのアップデートが必要	
K-W3	App Bridge Kicker Developer Tools のアップデートが必要	
K-L1	App Bridge Kicker Linux Agent のアップデートが必要	
T-W1	App Bridge Transporter Upload Agent のアップデートが必要	
T-W2	App Bridge Transporter Download Agent のアップデートが必要	

別紙3 App Bridge Kicker 価格表



App Bridge Kicker費用


利用量に応じてプランと課金区分を選択して下さい

月額費用	課金基準	プランA	プランB	プランC	プランD	
プラン基本料	定額	0円	10,000円	50,000円	100,000円	
利用者サーバ費用	ステップ実行した利用者サーバ数	500円/サーバ	サーバ20台まで0円 400円/超過サーバ	サーバ50台まで0円 250円/超過サーバ	サーバ100台まで0円 100円/超過サーバ	
利用者サーバステップ費用 (※1)	タスクの課金区分タイプ1	利用者サーバステップ実行回数	5円/回	500回まで0円 4円/超過回数	1,500回まで0円 2円/超過回数	10,000回まで0円 1円/超過回数
	タスクの課金区分タイプ2 (※4)	利用者サーバステップスケジュール回数	10円/回	8円/回	4円/回	2円/回
センタAgentステップ費用 (※2)	タスクの課金区分タイプ1	センタAgentステップ実行回数	10円/回	500回まで0円 8円/超過回数	1,500回まで0円 4円/超過回数	10,000回まで0円 2円/超過回数
	タスクの課金区分タイプ2 (※4)	センタAgentステップスケジュール回数	40円/回	30円/回	20円/回	10円/回
パブリックモジュール費用 (※3)	タスクの課金区分タイプ1	パブリックモジュールステップ実行回数	10円/回	500回まで0円 5円/超過回数	1,500回まで0円 2円/超過回数	10,000回まで0円 1円/超過回数
	タスクの課金区分タイプ2 (※4)	パブリックモジュールステップスケジュール回数	20円/回	10円/回	4円/回	2円/回
データアップロード費用	データアップロードサイズ	30円/GB	50GBまで0円 25円/超過GB	250GBまで0円 20円/超過GB	500GBまで0円 10円/超過GB	
データダウンロード費用	データダウンロードサイズ	60円/GB	50GBまで0円 50円/超過GB	250GBまで0円 40円/超過GB	500GBまで0円 30円/超過GB	
モジュールダウンロード費用	モジュールダウンロードサイズ(※5)	60円/GB	10GBまで0円 50円/超過GB	50GBまで0円 40円/超過GB	100GBまで0円 30円/超過GB	

※1：利用者サーバ指定のステップを対象とします

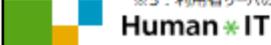
※2：センタAgent指定のステップを対象とします

※3：パブリックモジュール指定のステップを対象とします

※4：日次スケジュール(または連続スケジュール)のステップスケジュール回数(タスクステップ数×スケジュール回数)を課金基準とします
1つのスケジュール定義に複数の実行時刻を指定した場合も1スケジュールとカウントされるため、繰返し実行するタスクのコストを低減できます
Webサイト、コマンドなどで、オンデマンド生成されたステップインスタンスは、タスク設定に問わず、タイプ1として課金されます

※5：利用者サーバのモジュールダウンロードサイズを対象とします。モジュールはAgentにキャッシュされ、バージョンごとにダウンロードされます

(消費税別)



© Hitachi Systems, Ltd. 2021. All rights reserved.